井原遺跡群III

福岡県糸島郡前原町所在の井原・下町地区の調査

前原町文化財調査報告書

第　19　集

1985

前原町教育委員会

序　文

わが前原町は，福岡市に西隣する市町村ということで，毎年，人口増加が著しい状況にあり，また，福岡市の食糧生産地という重要な要素をも持っています。

本書は，昭和59年度に実施された井原地区県営ほ場整備事業に伴い，埋蔵文化財発掘調査を実施した調査報告書です。

本報告が，調査研究上の一資料としての活用や，社会教育活動の一助としていただければ幸に存じます。

最後に，調査に際して福岡県教育委員会・福岡県福岡教育事務所から御助言をいただいたことや，発掘調査に従事していただきました地元の方々，そして，発掘調査に協力していただきました福岡県福岡農林事務所・前原町土地改良区に対して深く謝意を表します。

昭和60年３月31日

前原町教育委員会
教育町　豊島禮蔵

例　言

1．本書は，福岡県糸島郡前原町大字井原他に所在する井原遺跡群の下町地区の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は，昭和59年度に実施された井原地区県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財包蔵地の削平部の調査結果である。

3．調査は，国県補助事業と福岡県からの委託事業として，前原町教育委員会が実施した。

4．本書の実測などは，川村　博，石井扶美子があたった。

5．本文の執筆・編集は川村がおこなった。

本 文 目 次

Ⅰ．はじめに
1．調査への経過……1
2．発掘調査の組織……2
Ⅱ．遺跡の立地と内容……5
1.立　地……5
2.下町地区の調査……5
（1）概 要……5
（2）上層の遺構と遺物……5
（3）下層の遺構と遺物……10
（4）層位とその出土遺物……14
Ⅲ．ま　と　め……16

図 版 目 次

図 版 1　〔上〕井原遺跡群下町地区（西から）
〔下〕　同　上　（東から）
図 版 2　〔上〕　同　上　東側（南から）
〔下〕　同　上　西側（同）
図 版 3　〔上〕ＳＢ01・ＳＢ02（南から）
〔下〕　同　上　（西から）
図 版 4　〔上〕ＳＢ01（南から）
〔下〕ＳＢ01出土遺物
図 版 5　〔上〕ＳＢ02（南から）
〔下〕ＳＢ02出土遺物
図 版 6　〔上〕ＳＤ06（北から）
〔下〕井原遺跡群下町地区出土遺物

挿 図 目 次

第１図　井原遺跡群下町地区発掘調査風景 …… 1
第２図　　同　　上　　位置図（1/50,000） …… 3
第３図　　同　　上　　（1/2,500） …… 4
第４図　井原遺跡群下町地区遺構配置図（1/100） …… 折込み
第５図　ＳＤ06実測図（1/60） …… 6
第６図　出土土器拓影（1/3） …… 7
第７図　ＳＸ02出土土器実測図①（1/3） …… 8
第８図　　同　　上　　②（1/4） …… 8
第９図　出土石製品等実測図（1/2） …… 8
第10図　第４層・Ｐ-19出土土器実測図（1/3） …… 9
第11図　出土鉄器実測図（1/2） …… 9
第12図　ＳＢ01実測図（1/80） …… 10
第13図　ＳＢ02実測図（1/80） …… 11
第14図　ＳＢ03実測図（1/80） …… 11
第15図　ＳＢ01出土土器実測図（1/3） …… 12
第16図　ＳＢ02出土土器実測図（1/3） …… 13
第17図　下町地区土層模式図 …… 13
第18図　第３層出土土器実測図（1/3） …… 14

I はじめに

1. 調査への経過

第１図　井原遺跡群発掘調査風景

井原遺跡群は，福岡県糸島郡前原町大字井原他に所在する遺跡群で，井原鑓溝遺跡などを含むものとして，総称しています。

発掘調査は，昭和59年度実施の井原地区県営ほ場整備事業に伴うものである。前原町教育委員会に福岡県福岡農林事務所より，届出が提出され，その届出にもとづき，両者によって協議を重ねて，ほ場整備事業と埋蔵文化財発掘調査の実施を円滑にはかることにした。調査は，基本的に，国県補助事業として実施したが，調査費の不足分等については，前述した協議にもとづき，農政側に依頼して負担していただいた。

井原遺跡群の発掘調査は，昭和59年８月より開始したが，下町地区については昭和59年10月24日より11月９日まで実施した。

最後に，調査にあたっては，次の機関の方々に協力をいただき，ここに感謝いたします。

福岡県福岡農林事務所

所　長	半田　義鋪	次　長	平野　重利
農地整備鉱害課課長	中村　昭夫	農地整備鉱害課県営第二係係長	原　新吾
主任技師	加治　正憲	主任技師	野美山英治
同	瀬来　祥市	技師	阿部　篤

前原町土地改良区

理事長	中村敬次郎	局　長	吉住　誠
主　任	石垣　謙心	構造改善事業係技師	松尾　正治
県営事業係技師	浅田　健司	団体事業係技師	潤　茂和
同	西嶋　優		

井原地区県営ほ場整備推進協議会

会　長　星丸　吉徳　副会長　佐々木　正　副会長　古藤　藤吾

会　計　松崎七生臣

2. 発掘調査の組織

調査主体　前原町教育委員会

調査担当　前原町教育委員会社会教育課文化係

総　括	教育長		豊島　禮蔵
	社会教育課課長		中原　直國
	同	文化係係長	吉村　耕治
庶　務	同	社会教育係係長	徳重　　認
		主　事	久保　静代
調　査	同	文化係主事	川村　　博
		主　事	林　　覚
	総務課	主事補	岡部　裕俊

調査協力

石井扶美子（調査補助員　別府大学文学部史学科　卒）

井上五月子　三苫ハルノ　平山キミ　山下ミツ子　原野スミ　三島大和　本田タツ子

野村松江　菊地ナオ子　小金丸利枝　山崎美代子　柳原キミ子　鬼尾トシ子　井上モモエ

山崎チヨ子　山崎富士子　平山千恵子　原野アサ子　青木輝代　松崎初枝　西木戸朝子

井上サギヌ　井上キヌヨ　平山富士子　井上恵美子　鬼尾ハツノ

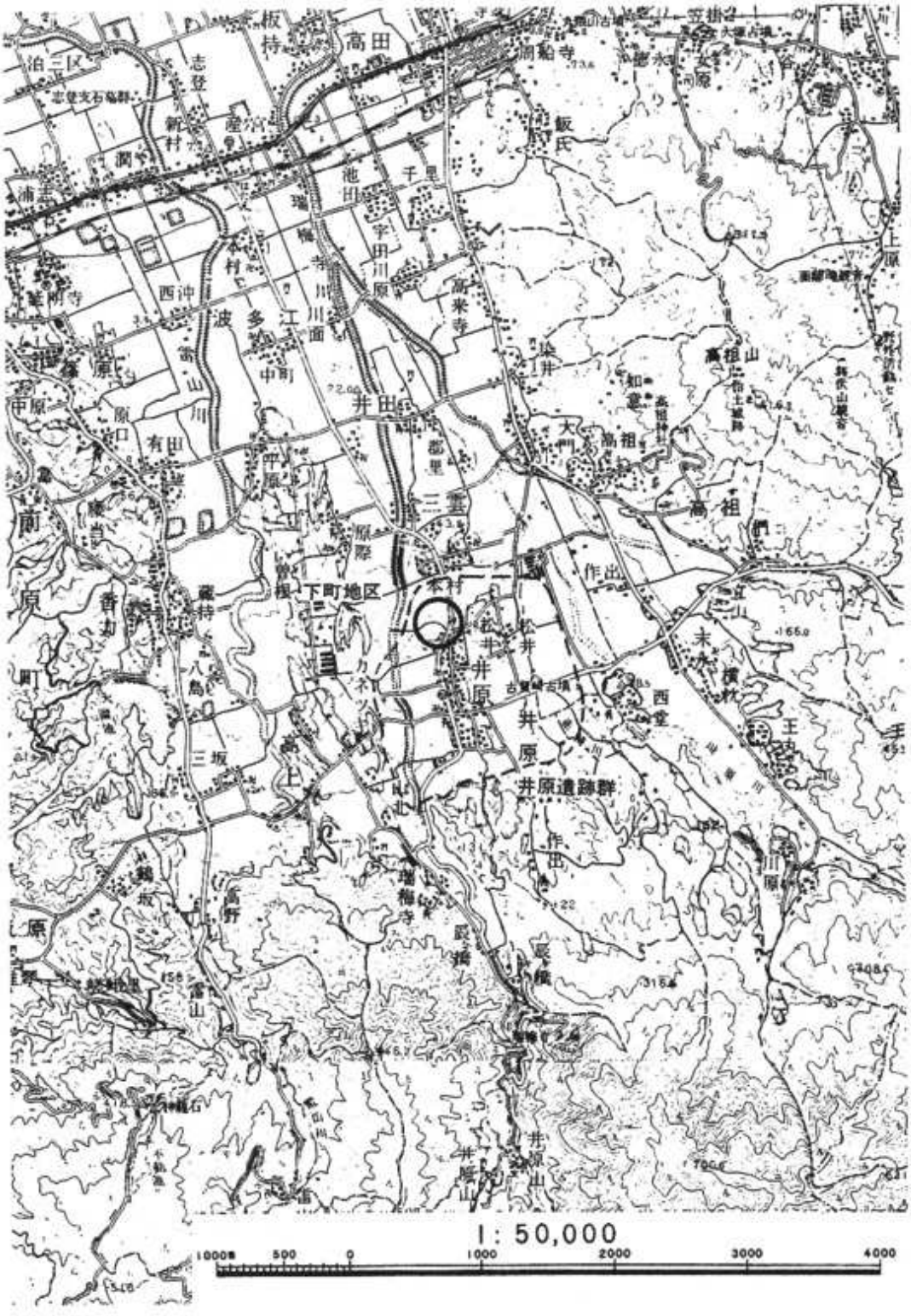
資料整理

原野アサ子　青木輝代　平山富士子　竹内孝子　柏田睦子　野村松江　岡田りつ子

藤森啓子　小金丸利枝　平山千恵子　中峰幸枝　東司まち子

なお調査において，福岡市教育委員会文化部文化課常松幹雄（前・前原町教育委員会嘱託）・福岡市埋蔵文化財センターの山口譲治，浜石哲也氏が来訪をされ，ご助言を受けた。また，前原校区公民館の活動の一環として社会教育活動に利用いただいた。

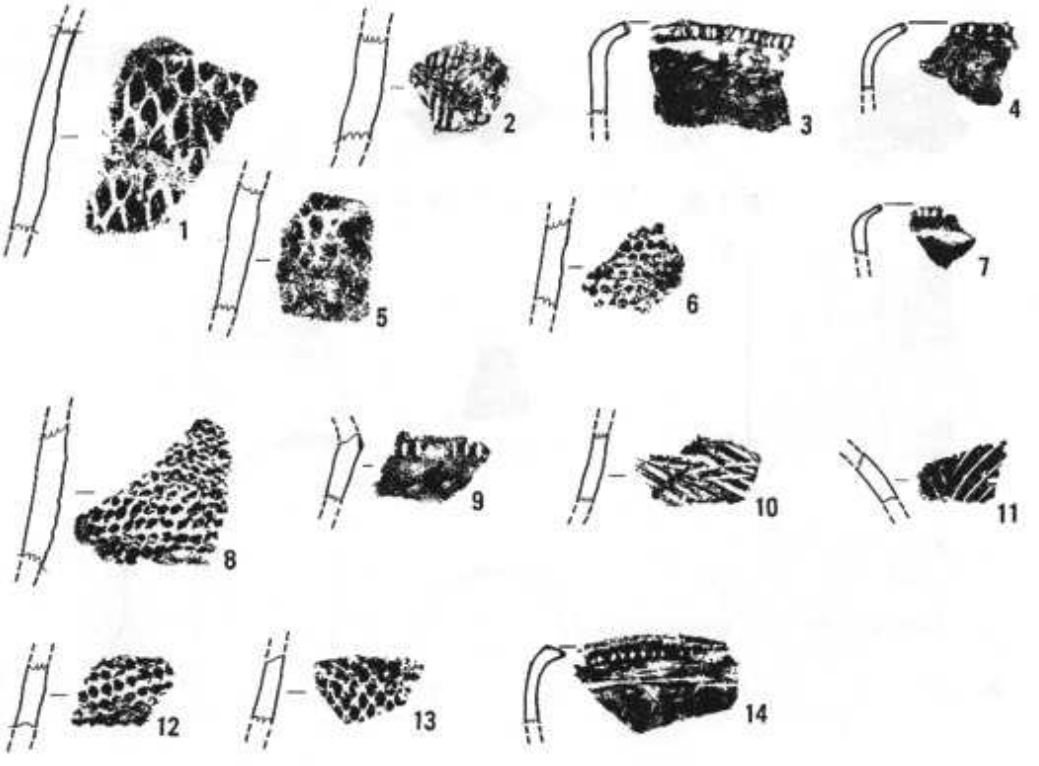
最後に，発掘調査の実施に深いご理解をいただいた土地所有者の方々に感謝いたします。



第2図　井原遺跡群下町地区周辺位置図(1/50,000)

第3図　井原遺跡群下町地区位置図（1/25,000）

第4図　井原遺跡群下町地区遺構配置図(1/100)



第6図　出土土器拓影(1/3)

弥生土器 (9) 甕形土器で，口縁部下で，「く」字状に内傾する器形で，屈曲部にヘラ状工具による刻み目を施している。外面の屈曲部下位はヨコ方向ハケ目で，内面はナデ調整である。胎土には石英質微砂粒，長石を含み，黒灰色を呈する。

SD02（第6図）

縄文土器 (13) 外面は楕円形の押型文で，内面は器表が剥落して不明である。胎土は粗製で雲母・微砂粒を含み，黄灰色を呈する。

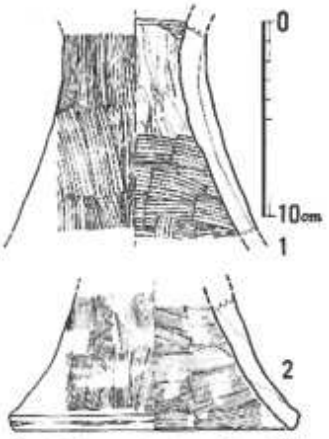
弥生土器 (14) 甕形土器の口縁部で，口唇部に刻み目を有する。外面はナデをみ，黒灰色を呈する。内面はナデて灰色を呈している。胎土には微砂粒・雲母を含む。

SD03（第6図）

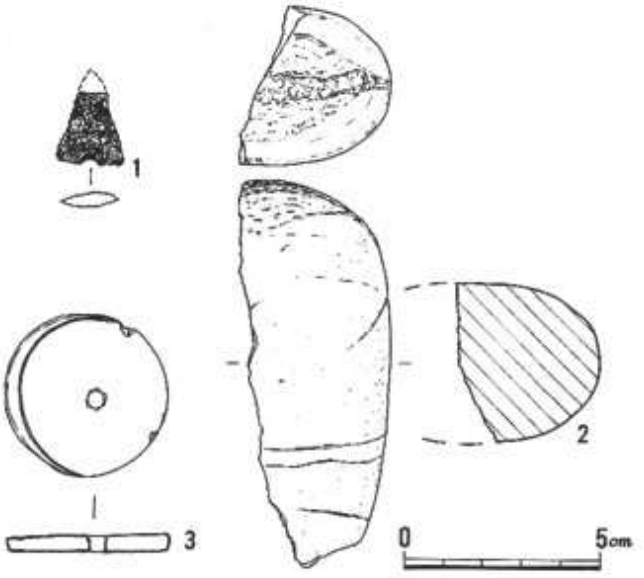
縄文土器 (10) 内外面に条痕をみ，黒色を呈する。石英質砂粒などを含むが，割合に器表の調整は良好である。

弥生土器 (11) 壺型土器の肩部で，外面は丹塗りで，研磨調整後，重孤文を施している。内面は器表が剥落している。胎土には石英質砂粒を含み，色調は淡赤茶色を呈する。

第７図　ＳＸ02 出土土器実測図①（1/3）



第８図　ＳＸ02出土土器実測図②（1/4）



第９図　出土石製品等実測図（1/2）

ＳＤ04（第９図）

石鏃 (1) 石材は黒曜石で，無茎鏃で，先端部を欠損している。

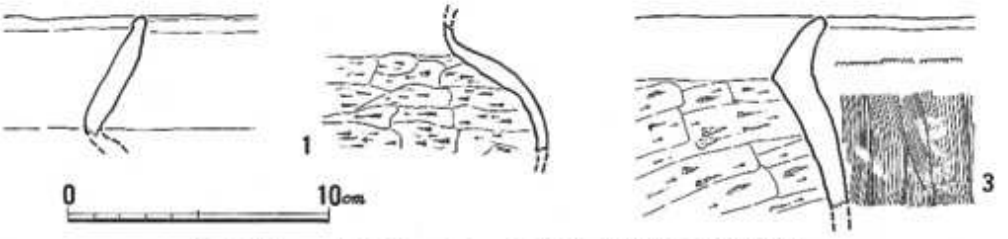
ＳＸ02（第７・８図）

縄文土器（第７図１）　鉢形土器の胴部で，外面は研磨され，内面には一部条痕がみられる。胎土には黒色の雲母片，微砂粒を含み，外面は茶灰色，内面は灰茶色を呈し，非常に良好な焼成である。

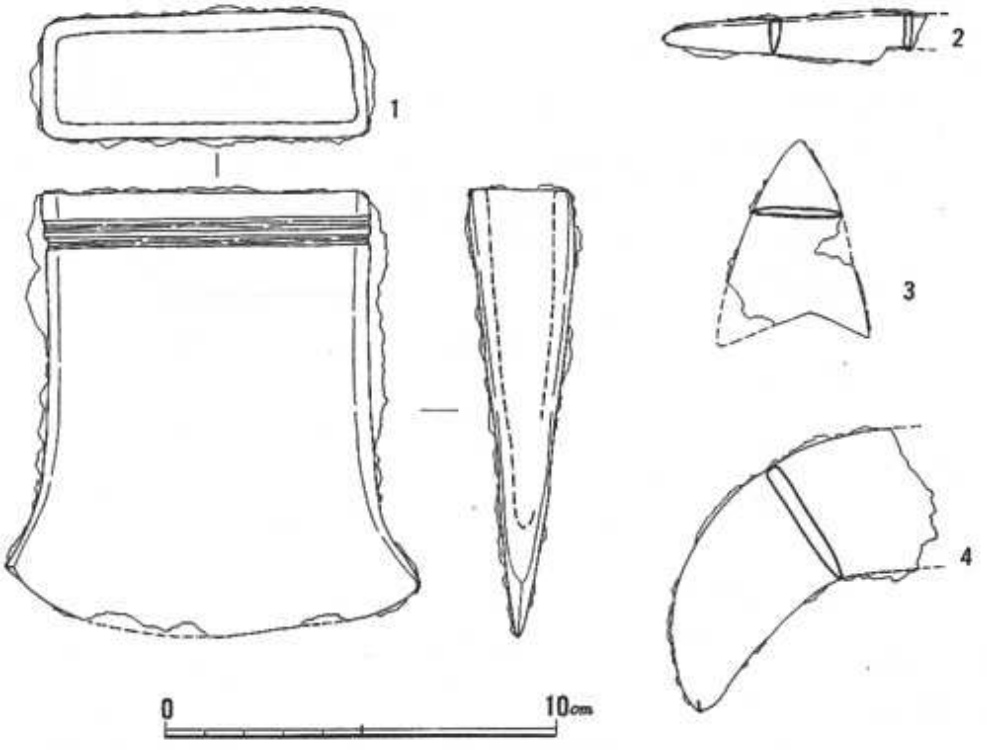
弥生土器（第８図）　１・２ともに器台で，１は，外面には荒い縦方向のハケ目をみ，内面では上位には横方向のハケ目をみ，中位にしぼり痕跡を，下位には横方向のハケ目を施している。胎土は白色の砂粒を含み，色調は濃茶灰色を呈する。２は，底径14.4cmを測り，外面の底部はヨコナデであり，その上位には細かい縦方向のハケ目をみる。内面は基本的には横方向ハケ目で，部分的に斜目方向のハケ目をみる。胎土には石英質砂粒などを含むが，器表は化粧土によりあまり目立つものではない。色調は茶灰色を呈する。割合に良好な焼成である。

内黒土器（第７図２）　外底部がヘラ切りで高台を貼付けている。内面はヘラミガキで，外面はヨコナデである。高台径7.8cmを測る。

以上がＳＸ02出土土器であるが，弥生土器の器台については後述するＳＢ02に属するもので



第 10 図　第 4 層・P－19出土土器実測図（1/3）



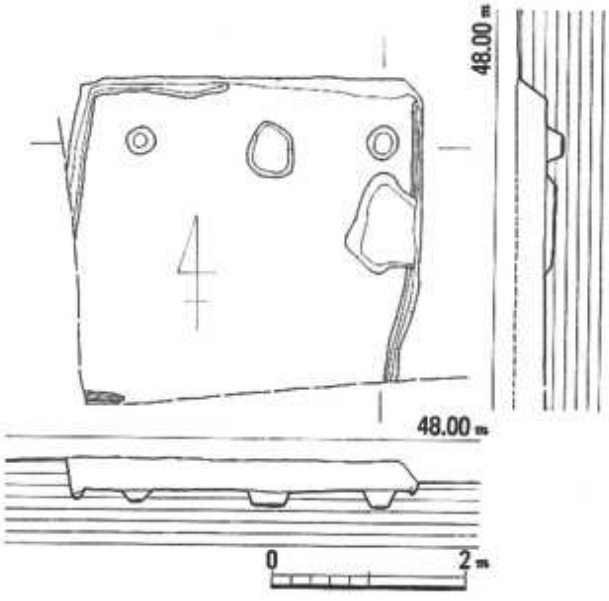
第 11 図　出土鉄器実測図（1/2）

あろう。

柱穴状ピット（第6・10・11図）

縄文土器（第6図5，6，12）5・6はP－21出土である。5は外面が押型文で，内面は不明で，胎土には黒色砂粒・雲母片・微砂粒を含み，淡黄灰色を呈する。6は外面が山形状の押型文で内面には板状工具のナデをみる。白色砂粒を含み，黒灰色を呈する。12はP－17出土で，外面には楕円形の押型文をみ，内面には板状工具のナデをみる。白色砂粒を含み，灰黒色を呈する。

弥生土器（第６図４～７）　４はＰ－14出土で，口唇部に刻み目を有する外反する如意状口縁である。内外面ともにヨコナデをみ，内面の一部にハケ目をみる。胎土は割合に精選されており，色調は黒灰色を呈する。７はＰ－21出土で，口唇部に刻み目をもつ如意状口縁である。胎土は白色砂粒を含むが，割合に精選されている。黒灰色を呈する。



第12 図　ＳＢ01実測図（1/80）

土師器（第10図）３は外反する厚い口縁部で，外面は口縁部がヨコナデで，体部が縦方向ハケ目である。内面体部は横方向のヘラ削りをみる。砂粒を含み，黄灰色を呈する。Ｐ－14出土である。

鉄鏃（第11図４）Ｐ－８出土で，鉄鏃の先端部である。厚さ4.5㎜を測る。

（３）下層の遺構と遺物

竪穴式住居跡

ＳＢ01（第12図）

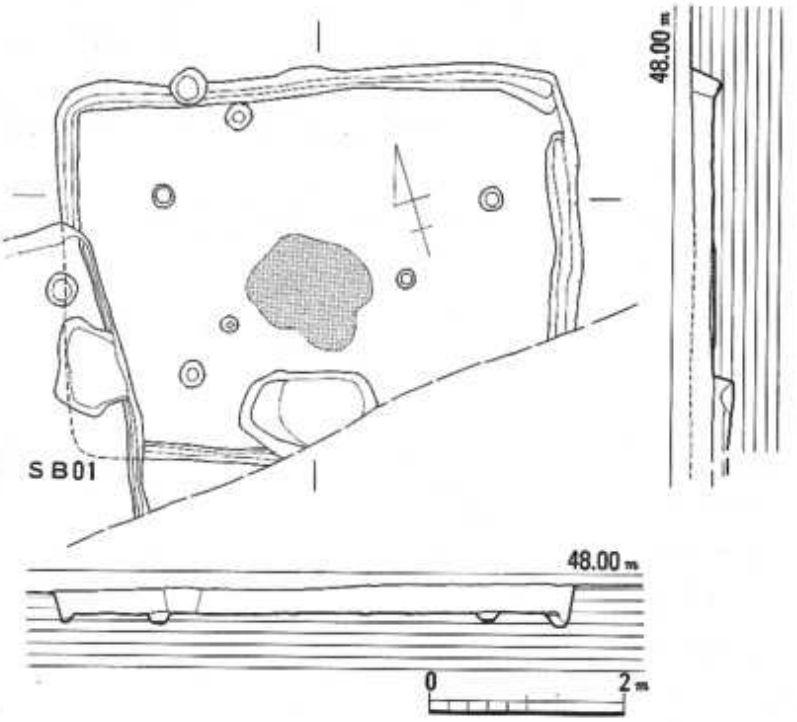
調査区の南西部で検出した竪穴式住居跡で，方形プランを呈する。周溝は一部をのこし，全周し，東側に貯蔵穴をもち，北側中央にも土壙をもつ。これも貯蔵穴の可能性が高い。柱穴は２個検出できているが，４本の主柱をもつものであろう。住居跡の規模は，東西約3.65ｍ×南北約3.35ｍで，周溝巾は約0.1～0.15ｍを測る。

ＳＢ02（第13図）

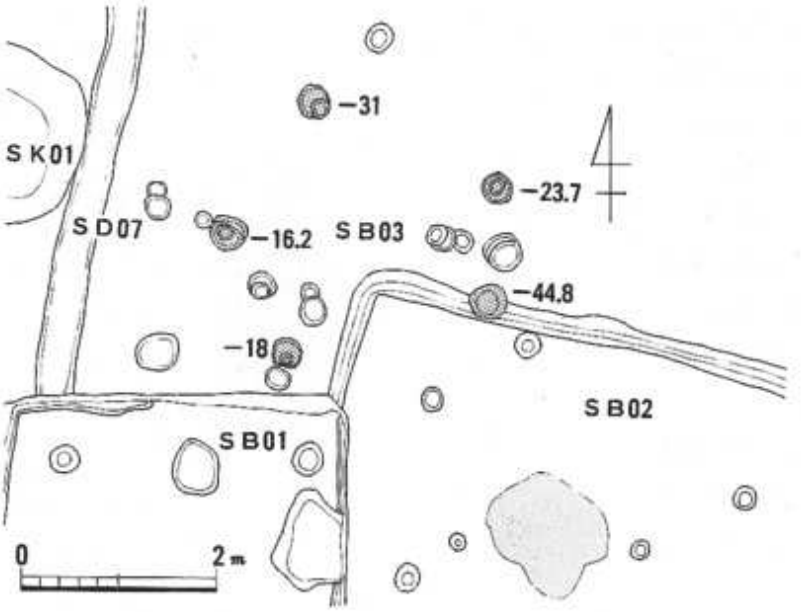
ＳＢ01に切られている竪穴住居跡で，方形プランを呈し，周溝はほぼ全周し，南側に貯蔵穴をもつ。床面中央部には焼土を検出し，炉跡であろう。主柱は４本であろうが，それに対応する柱穴は３個調査した。東西約5.3ｍ×南北約3.9ｍで，周溝巾は約0.2～0.3ｍを測る。

ＳＢ03（第14図）

ＳＢ01・ＳＢ02の北側で検出した柱穴群の内で，柱穴の検出状況で，円形プランの住居跡の



第 13 図　ＳＢ02実 測 図 (1/80)



第 14 図　ＳＢ03実 測 図 (1/80)

存在が考えられる。

溝

SD08（第４図）

調査区西側で検出した溝で，巾約0.4～0.5ｍ・深さ約0.05ｍを測る。ＳＢ01・ＳＫ01に切られている。

土壙（第４図）

SK01（第４図）

調査区西端の中央で検出した不整形プランの土壙で，約0.75×(0.6＋α)ｍの規模で，深さ約0.4ｍを測る。性格は不明である。

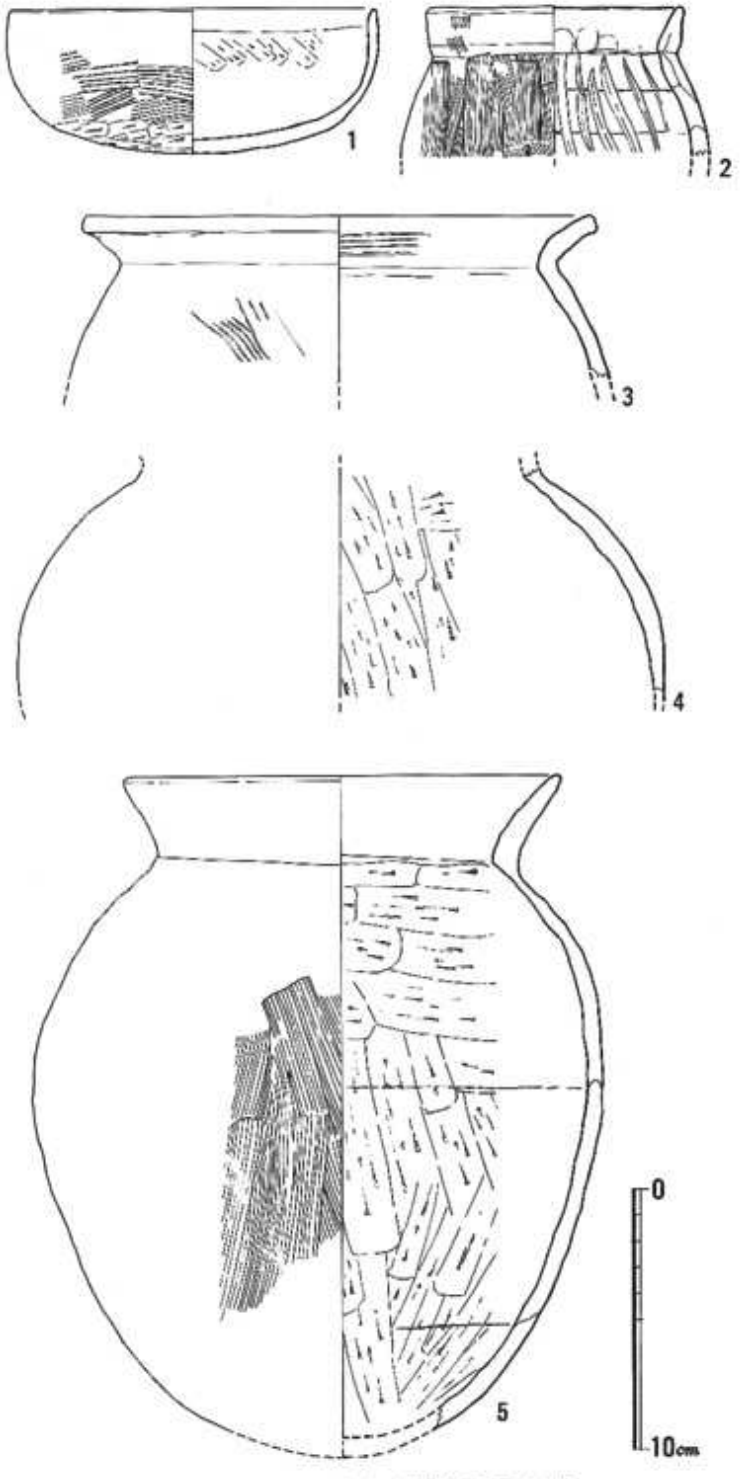
出土遺物

下層で出土した遺物は，竪穴式住居跡で割合にまとまった状況であった。ＳＢ01については，ほぼ床面で，ＳＢ02では貯蔵穴・床面直上の出土である。

SB01（第15図）

土師器

壺 (4) 口頸部・底部を欠損するもので，外面は器表が剥落し，内面は縦方向のへら削りである。



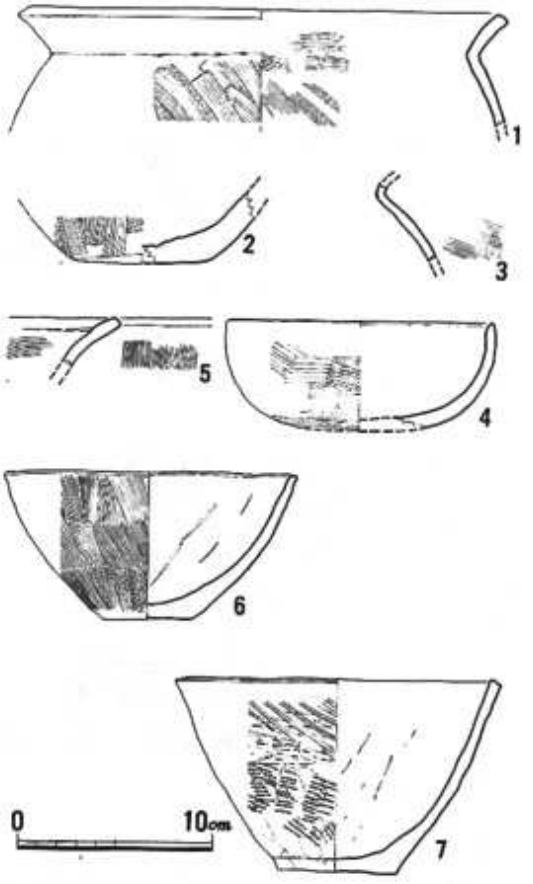
第 15 図　ＳＢ01出土土器実測図（1/3）

壺（2・3・5）　2は，口径9.9cmを測り胴部の外面に縦方向のハケ目調整をみ，内面にヘラ状工具による縦方向の削り的成形を施している。口頸部はヨコナデで，一部にハケ目が外面にみられ，内面に指頭圧痕をみる。3は，口径19.5cmを測り，口頸部は外反し，内面にハケ目を一部みる。胴部の外面は一部ハケ目をみるが，全体的にナデ調整であり，内面は板状工具による不定方向のナデである。5は，口径16.5cmを測り，口縁部がまっすぐに外反する。ヨコナデ調整である。胴部外面にはハケ目調整の後で板状工具でナデており，内面はヘラ削りで，上位から横方向・縦方向である。胴部最大径は中位程の所である。

椀 (1) 口径14.1cm・器高5.6cmを測り，口縁部ヨコナデで，口縁部の下位の外面は，横方向ハケ目で，底部はヘラ削りである。内面は板状工具のナデの後研究磨している。

鉄器（第11図）

鉄鏃 (3) 床面出土で，全長約5.1cmを測り，無茎鏃である。



第 16 図　ＳＢ02 出土土器実測図 (1/4)

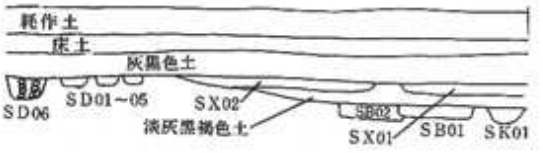
ＳＢ02

弥生土器（第16図）

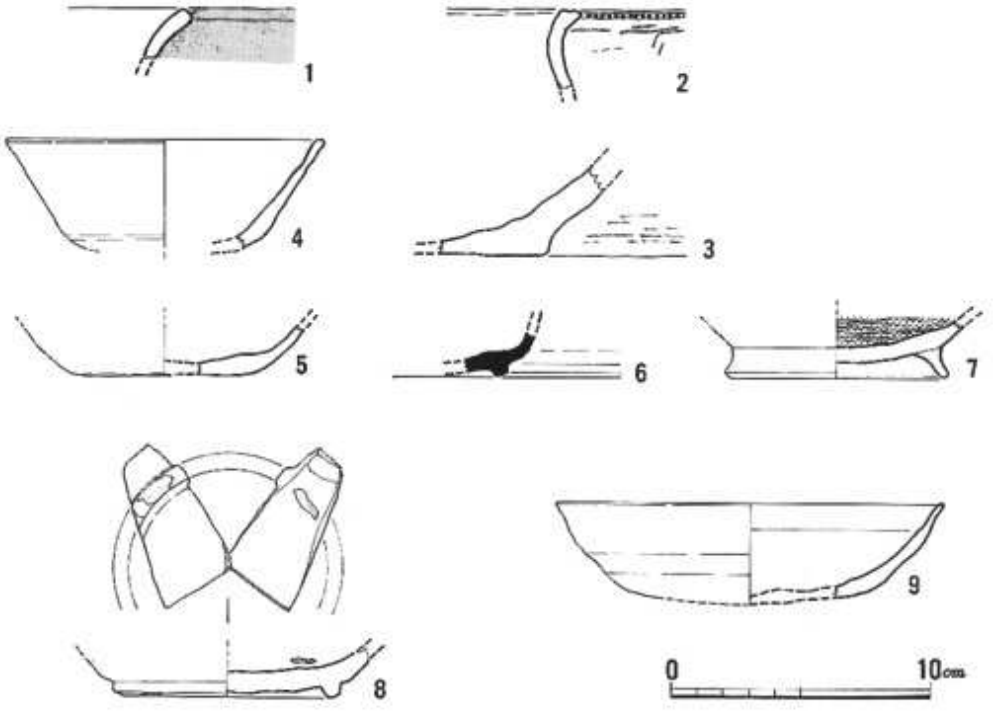
壺 (3) 少片で，外面の調整はハケ目調整後ナデて，内面はナデている。砂粒・微砂粒を含み，黄灰色を呈す。

甕（1・2）　1・2は同一個体の可能性が強い。口径24.1cmを測り，口縁部は外反する。胴部の内外面ハケ目をみる。胎土には白色砂粒を含むが割合に精選されたもので，黄茶色を呈する。

椀 (4) 口径13.6cmを測り，口唇部は丸くおさめている。外面にハケ目，内面にナデの調整であり，胎土には，微砂粒・黒雲母粒をわずかに含み，赤茶色を呈し，ややあまいが精緻な焼成である。貯蔵穴出土であ



第 17 図　下町地区土層模式図



第 18 図　第 3 層出土土器実測図 (1/3)

る。

鉢（6・7）　6は，口径15.1cm・器高7.6cmを測り，口縁部は丸くおさめる。外面はハケ目調整で，内面はナデの後ミガキを施している。7は，口径15.6cm・器高10.0cmを測り，口唇部はやや凹部になっている。外面は基本的に，指頭痕による成形の後でタタキによって整形しており，体部上半部はその後ヘラ削り後，板状工具によるナデを施している。内面はナデてミガキを施す。

石製器（第9図）

紡錘車 (3) 石材は砂岩質で，4.15×4.20cm・厚さ0.45cmを測る。片面に割付けの沈線をみる。

（4）層位とその出土遺物

層位

前述したとおりに，上層・下層で遺構と遺物を調査することができたが，遺跡における全体的な層位は，耗作土・床土・灰黒色土（第3層）・淡灰黒褐色土（第4層）である。

なお，遺溝は，灰黒色土・淡灰黒褐色土の除去後に検出できたものである。

出土遺物

第3層

縄文土器（第6図1・2） 1は，外面が楕円形の押型文で，内面はナデている。胎土には白粒微砂粒・黒雲母片を含み，割合に精選され，淡灰茶色を呈する。2は，内外面ともに器表が剥落している。胎土には白色微砂粒を含む。淡茶色を呈する。

弥生土器（第6図3・第18図1・2・3） 第8図の3は，口唇部にヘラ状工具による刻み目を有する如意状口縁で，胎土には白色砂粒を呈し，外面は黒茶色を，内面は茶灰色を呈する。第18図の1は，少片で器形は不明であるが，外面は丹塗である。内外面ともにハケ目調整の後ヨコナデでる。砂粒を含み灰白色を呈する。2は，口唇部に刻み目を有する。黒灰色を呈する。3は，底部片で，外面は指頭圧痕成形後横方向の条痕をみる。赤茶色を呈する。

土師器（第18図4・5・9） 4は，杯で口径12.3cmを測る。ヨコナデ調整である。5は，底部片である。9は，口径15.0cmを測る丸底の杯である。

須恵器（第18図6） 台形状の高台をもつ杯身で，畳付けは高台の内側である。

内黒土器（第18図7） 高台が外反する内黒土器で，高台径8.7cmを測る。

青磁（第18図8） 越州窯糸の青磁で，内外面に重焼き痕跡をみる。

鉄器（第11図） 1は鍛造の鉄斧で，袋部は長方形を呈する。全長約11.4cm，刃部巾10.6cmを測る。2は刃子で，現存部長6.8cm，刃部長5.7cmを測る。

石器（第9図） 3は，スリ石で半形品である。

第4層

土師器（第10図1・2） 1は，口縁部破片で口唇部を跳上げている。調整はヨコナデである。2は壺形土器であり，肩が張っている。内面はヘラ削りで，外面の調整は不明である。

Ⅲ まとめ

今回の井原遺跡群の調査は，前章で記述したような遺構を検出することができたが，ここでは，遺構・出土遺物について若干説明を加えるのみにする。

遺構について

住居跡３軒・溝８条などの遺構を検出し調査できた。住居跡については，三雲遺跡・井原遺跡の範囲において，全般に検出することができるものであり，今後も調査例が増加するものである。ただ，今回の調査で，古墳時代前期の住居跡を検出することができなかったことは，今後の調査の課題でもあり，昭和55年度の井原遺跡群の範囲確認調査でもその状況を想像しえるものではなかった。このことは，伊都国の終焉の時期とも考えられる古墳時代布留期の居住地域との関連で，今後，更に追及していくことが必要であろう。

なお，溝については，近代と想定できる溝もあるが，条里制に伴うか否かについては，今後の課題である。

出土遺物について

井原遺跡群下町地区の調査では，縄文時代早期・後～晩期や，弥生時代前期の土器片を出土したため，可能なかぎり図化などに努めさせていただいた。また過去の調査では，「三雲遺跡Ⅳ」に報告されているように，縄文時代後期後半から晩期の甕形が出土していることもあり，今後の調査で明らかにする必要があるが，この地域の調査は，ほ場整備に伴うものであり，削平されない層位部の調査まで実施していないのが実状であるため，全域で出土例は増すものであろう。

図　　版

〔上〕井原遺跡群
下町地区（西から）

〔下〕　同　　上　（東から）

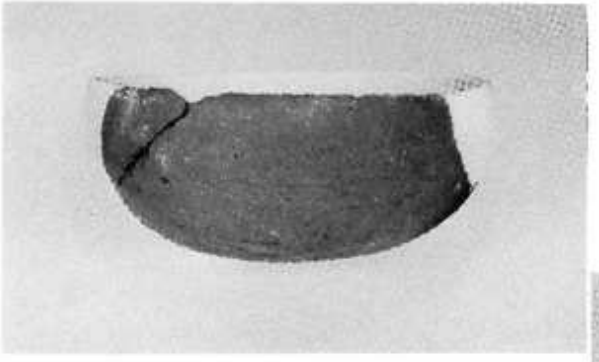
〔上〕井原遺跡群下町地区調査区東側（南から）

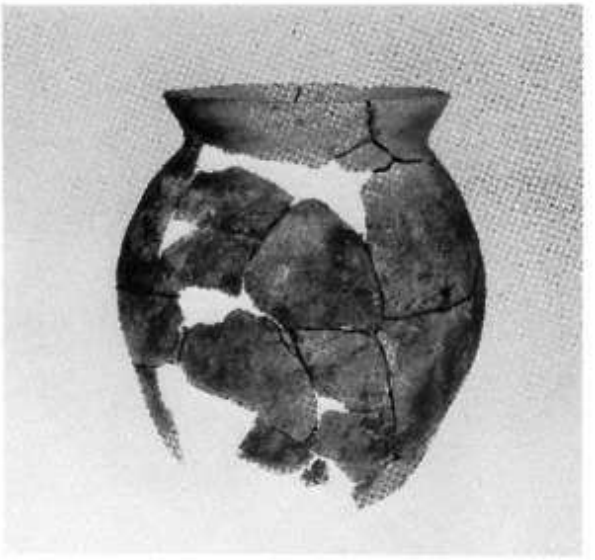
〔下〕　　同　　西側（南から）

〔上〕 S B01・S B02（南から）

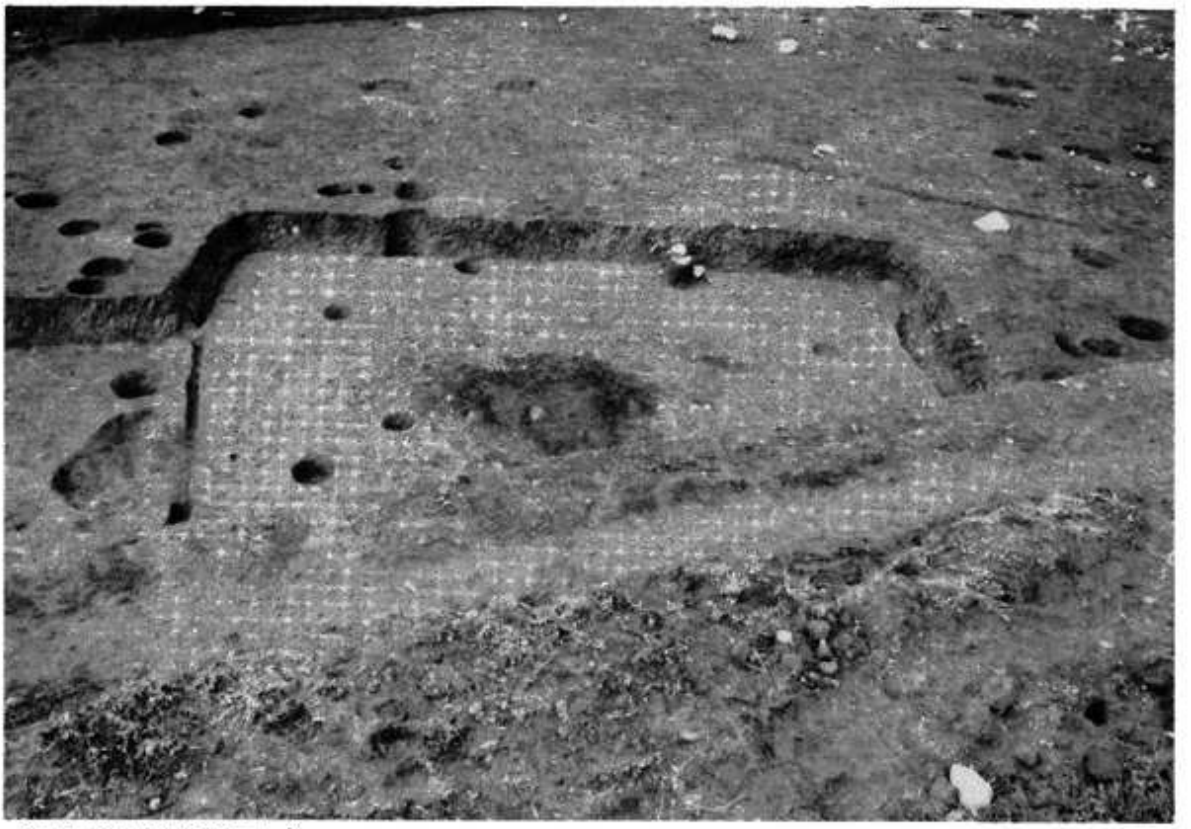
〔下〕　同　上（西から）

〔上〕SB01（南から）

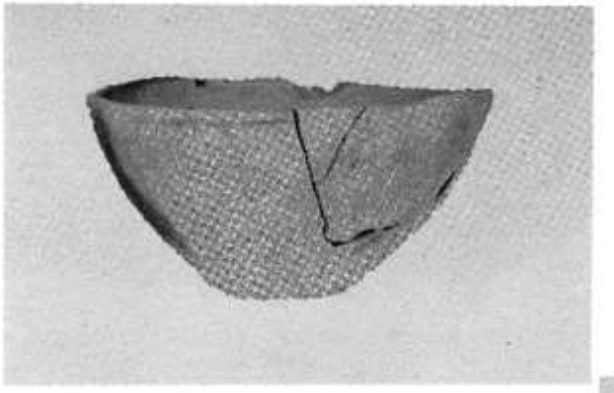


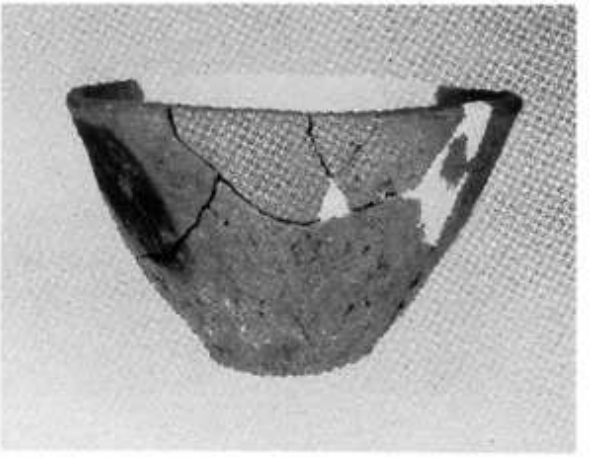


〔下〕SB01 出土遺物

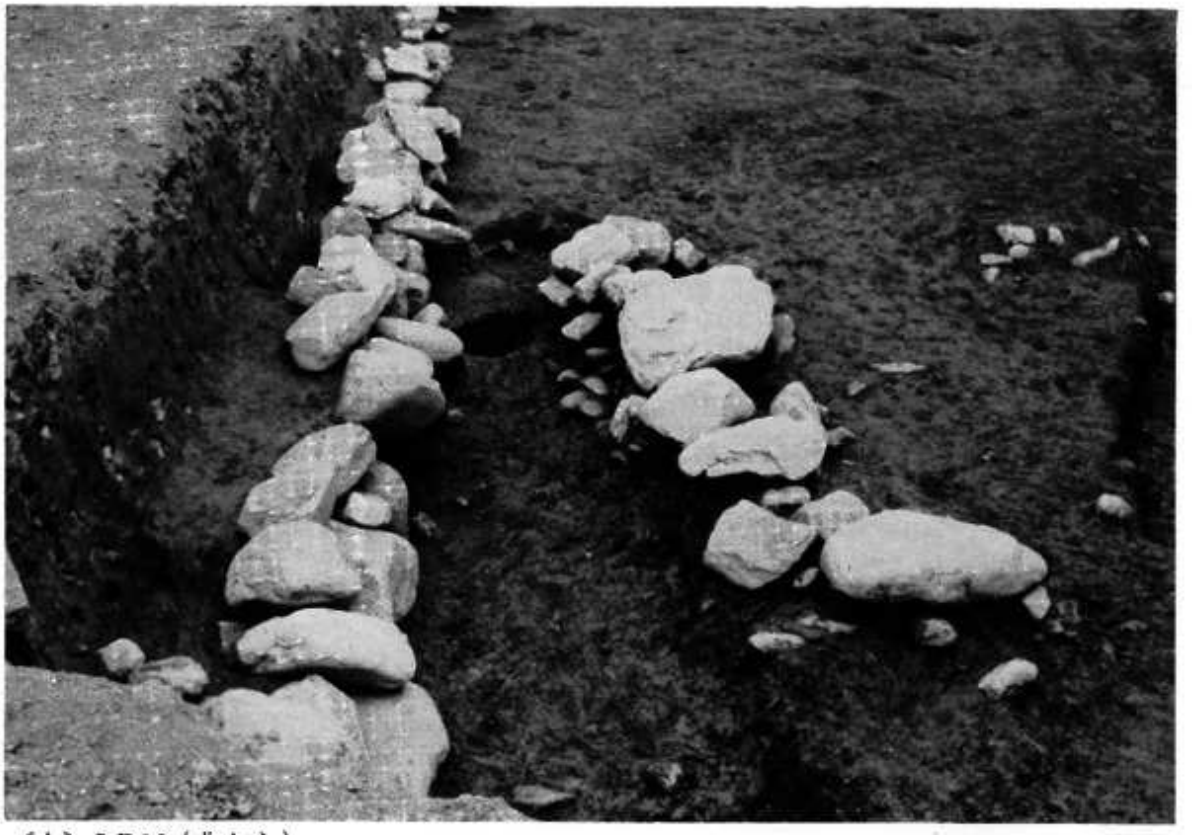


〔上〕SB02（南から）

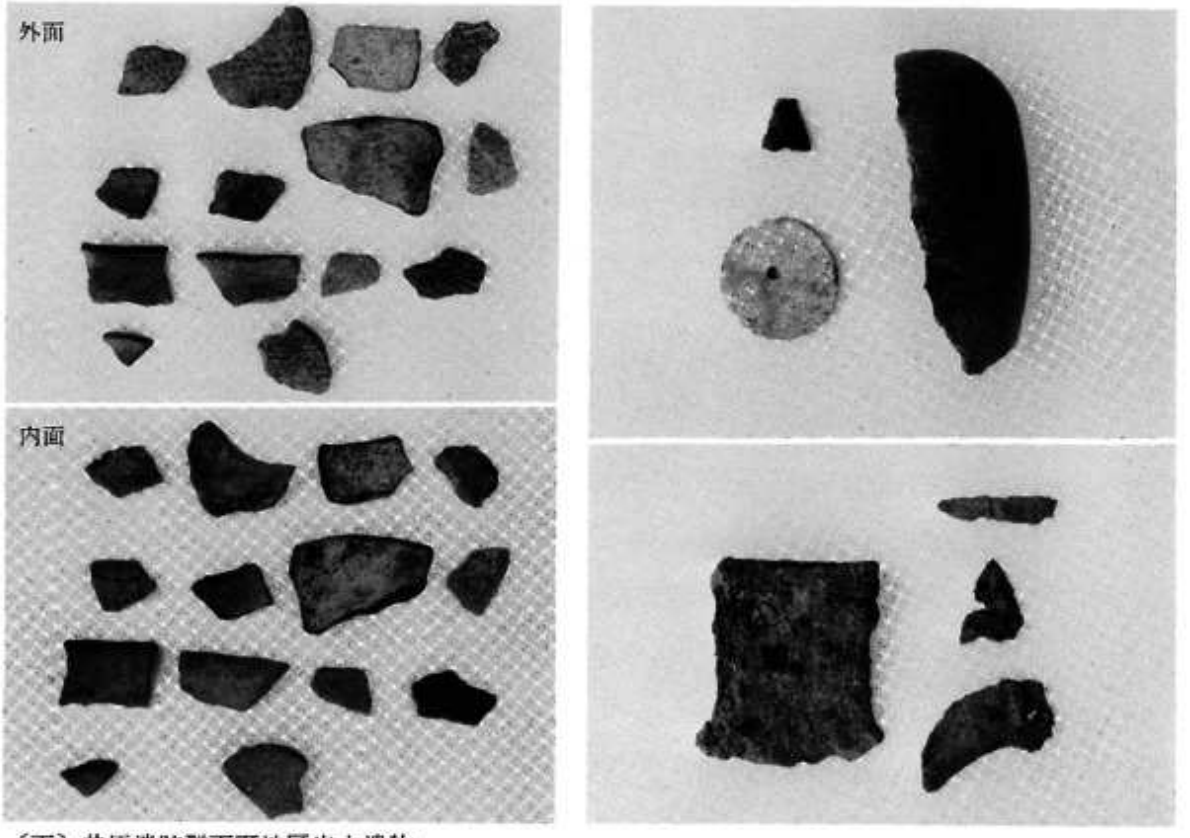




〔下〕SB02 出土遺物



〔上〕ＳＤ06（北から）



〔下〕井原遺跡群下町地区出土遺物

井原遺跡群III

昭和60年3月30日発行

発行者　前原町教育委員会
糸島郡前原町大字前原623

印刷所　赤坂印刷株式会社
福岡市中央区大手門1丁目8−34